**『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』**

**第21号　論文の書式について**

**１．用紙・書式**

別紙のテンプレートでは下記の設定になっています。この設定を変えないでください（テンプレートの上で文字を挿入すれば設定通りになりますので、文字フォントやポイント数の設定等が省けます。）。またテンプレートには左側に行番号が設定されています。これも変更しないでください。なお、投稿規定にある枚数制限は、下記の掲載決定後に記入する項目を除いた状態での上限です。

用紙　　：A4判横書きワープロ原稿

余白　　：上下左右28mm

字詰め　：40字（字送り10.9pt）×38行（行送り18pt）、両端揃え

**２．タイトル、著者名、要旨、キーワード、所属（下線部は掲載後に記入）**

* 最初の行にタイトル（MS明朝、14pt、太字、中央揃え）

副題がある場合は、ダッシュではさむ（MS明朝、12pt、普通字体）《－副題－》。

1行あけて、日本語表記の著者名と所属（括弧内）（MS明朝、10pt、中央揃え）

改行してメールアドレス　（Times New Roman、10pt、中央揃え）

* 1行あけて、英文タイトル（Times New Roman、12pt、太字、中央揃え）

副題がある場合は、コロン（：）をタイトルの末尾に付ける（Times New Roman、11pt、普通字体、中央揃え）。

1行あけずに、ローマ字表記著者名（Times New Roman、10pt、中央揃え）

* 和文要旨（MS明朝、10pt、400字以内）は、投稿時は本文の最後に記入する。**要旨は本文の規定ページ数には含まれない**。なお、英文要旨は掲載決定後に記入する（Times New Roman、10pt、200語以内）。英文タイトルと英文要旨は英語母語話者にチェックをしてもらう。掲載決定後は、１行あけて和文要旨（MS明朝、10pt、400字以内）、１行あけて英文要旨（Times New Roman、10pt、200語以内）を書く。和文、英文とも行頭は左揃えにする。
* 1行あけて、キーワード（5語まで。本文と同じ言語のキーワードのみ）を入れる（MS明朝またはTimes New Roman、10pt、左揃え）。日本語の場合にはキーワードとキーワードの間に読点を入れる。英語の場合には半角のコンマを入れる。
* 英文タイトルの大文字・小文字使用についてはAPA (The American Psychological Association) のPublication Manual 第7版に準拠し、タイトルとサブタイトルの頭以外の冠詞、前置詞、接続詞は小文字にする。《Language Policies and Practices in the Internationalization of Higher Education on the European Margins: An Introduction.》
* 著者名は、日本語表記の場合は姓名の間に半角スペース《山田 花子》、カタカナ表記の場合は、《スミス ジョン》とする。英語表記は、名・姓の順に並べ、名も姓も頭文字のみ大文字、名と姓の間は半角スペースを入れる《Hanako Yamada》（Times New Roman、10pt、普通字体、中央揃え）。

著者が複数の場合は、日本語表記は著者と著者の間に読点（、）を入れ、《山田 花子、木村 太郎、ジョン スミス》とし、英語表記の場合は、著者と著者の間およびandの前に半角コンマを入れ《Hanako Yamada, Taro Kimura, and John Smith》とする。

なお、姓名の概念が日本語や英語などの言語と異なる場合には当該言語の慣習に従うものとする。

* 所属については、大学院生の場合は身分を明記する《◯◯大学大学院 博士課程》。

**３．見出し・本文**

フォント：MS明朝10pt（英数字はTimes New Roman 10pt）

節見出し：**１．**（全角数字＋全角ピリオド）＋見出し（太字）。

　　　　　１行あけて本文を書き始める。

　　　　　 項見出し（**1.1**）の前も１行あける。

項見出し：**1.1**　（半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋半角スペース）＋見出し（太字）。1行あけずに本文を書き始める。

項見出し：**1.1.1**　（半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋半角スペース）＋見出し（太字）。

1行あけずに本文を書き始める。

句読点 : 句点は「。」、読点は「、」。

※見出しと行あけについて：下記のように**1.1** の直後が**1.1.1** である場合、**1.1** と**1.1.1**の間に１行あける必要はないが、**1.1.1**の後に**1.1.2**が続く場合、**1.1.2**の前に１行あける。

**1.1** **見出し**

**1.1.1 見出し**

××××××××××××××××××××××××××××××××××××

××××××

（1行あける）

**1.1.2 見出し**

××××××××××××××××××××××××××××××××××××

××××××

カッコ ：（ ）「」『』ともに全角使用。ただし英文の引用文献リストの ( ) は半角。

数　字 ：アラビア数字の場合は半角を使用する。

注 　　：稿末注とし、本文の直後に入れる。フォントは9pt

本文中の注は「上付き」を使用し、右肩に半角の「数字+パーレン」1)2) ‥で示す。

本文中の文献表示：

* 著者名・刊行年を本文で表示する場合

山田・田中（1990）、Dressler and Kamil（2006）、Bialystok et al.（2000）

* 著者名・刊行年を本文カッコ内で表示する場合

（山田・田中, 1990）、（斎藤, 2000; 山田, 2002）、（Cummins, 1981, 1991）、（Dressler & Kamil, 2006）、（Bialystok et al., 2000）

* 著者名・刊行年を本文カッコ内で表示し、ページ数も記載する場合

（山田・田中, 1990, p.5）

**４．図表（発話データ等を含む）**

* 本文と図表・発話データ等の間は１行あける。
* タイトルは表や図の上に、行をあけずに表記する。
* 注（*p*値など）は、図表の下に、行をあけずに表記する。
* 図表内には、9pt未満の文字は使用しない。
* 網掛けなどの使用や図表は見やすさにご配慮ください。
* 大きな表は、頁をまたがって掲載しても構わないが、なるべく頁内に収まるよう配置すること。また、頁をまたぐ場合は再度表のタイトルを提示すること。最終的には印刷段階で調整する。

表1　タイトル（ 表の上、中央揃え、MSゴシック・Arial、9pt）

|  |
| --- |
| MSゴシック・Times New Roman、 9pt以上9pt以上 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

注（表の下、左揃え、MS明朝・Times New Roman、9pt）

図1　タイトル（ 図の上、中央揃え、MSゴシック・Arial、9pt）

注（図の下、左揃え、MS明朝・Times New Roman、9pt）

* 発話データ・長めの直接引用については、元の文章を一つのブロックとして扱い、全体を本文より全角２文字下げ、行間を最小値の0ポイントとする。タイトルはデータの上に左揃えで書く。発話データのデータ番号や引用元はデータ（引用文）の次の行に右揃えで入れる。

発話データ1　（和文：MSゴシック、英文：Arial、10pt、左揃え）

そうですね、いつも思うことなんですけど、この会のいいところは、会員の距離が近いところですかね。実際は世界中にいるから、皆さん物理的にはとても遠いんですけどね。でも、学会で会えるのを楽しみにしてる人もいるし、なんていうか、「わー、久しぶりー、元気だったー？」みたいな。ね、そうでしょ？

発話番号00

* 発話シークエンスを提示する必要がある場合は、表形式にして、発話者やターン番号などの項目ごとに記入することを推奨するが、データの性質上他の提示方法を選択することも可能である。

**５．注**

* 半角数字1)　2)　…と番号を振り、番号の後ろに全角スペースを入れる。複数行にわたる際には、文章の行頭を上下で揃える。
* 和文はMS明朝、英数字はTimes New Roman、フォントサイズは9pt

**６．引用文献**

* 論文中に引用したもののみを挙げる。
* 日本語文献（50音順）の次に英文文献（アルファベット順）で記載する。
* 日本語表記はMS明朝、英数字はTimes New Roman、フォントサイズは9pt、行間は最小値の0ポイントとする。
* 引用文献リストの（　）は、日本語文献は全角、英文は半角とする。
* 一点の文献情報が複数行にわたる際には2行目以降の行頭は原則全角2.5文字下げる。
* DOIがある文献についてはその文献情報の末尾に提示する。
* 文献情報としてURLを記載する場合には「より取得」などの文言は必要ない。

＜日本語文献表記＞

* 著書の場合：

山田花子（1998）『論文の書き方』MHB出版

　　＊著者名の姓と名前の間にスペースは入れない。

* 学術誌掲載論文の場合：

山田花子（1998）「日本語文献」『MHB研究』20（5）, 111-119.

　　＊号数の後に半角コンマ、ページ番号の後にはピリオドを入れる。

* 著書掲載論文の場合：

山田花子（1998）「日本語文献」鈴木一郎・佐藤二郎編『文献の表記方法』（pp.111-120）MHB出版

　　＊著書名の後のカッコ中に「pp.」を用いてページ番号を記載、最後にピリオドはなし。共著者の場合は、ナカグロ「・」で並記。

＜英文文献表記＞

APA (The American Psychological Association ) のPublication Manual 第7版に準拠する。参考として、Purdue大学のサイトを挙げる。

https://owl.purdue.edu/owl/research\_and\_citation/apa\_style/apa\_formatting\_and\_style\_guide/general\_format.html

* 著書の場合：

Baker, C. (2011). *Foundations of bilingual education and bilingualism* (5th ed.). Multilingual Matters.

＊著者名（姓の後にコンマ、名のイニシャル表記の後にピリオド）、発行年（半角カッコの後にピリオド）、著書名（イタリック体表記の後にピリオド）、出版社名（最後にピリオド）

* ジャーナル掲載論文の場合：

Creese, A., & Blackledge, A. (2010). Translanguaging in the bilingual classroom: A pedagogy for learning and teaching? *The Modern Language Journal, 94* (1), 103-115. http://doi.org/bmvrsp

＊発行年(半角カッコの後にピリオド)の後、論文名（後ろにピリオドなどの文末記号）、ジャーナル名（*イタリック体表記）＋イタリック体コンマ＋イタリック体巻数＋* (ローマン体号数)＋コンマ、ページ番号＋ピリオド、DOI情報（ピリオドなし）

* 著書掲載論文の場合：

Cummins, J. (2009). Fundamental psychological and sociological principles underlying educational success for linguistic minority students. In T. Skutnabb-Kangas, R. Phillipson, A. K. Mohanty & M. Panda (Eds.), *Social justice through multilingual education* (pp. 19-35). Multilingual Matters.

＊ページ番号は著書名の後に(pp.◯◯–◯◯)．と記す。その後に出版社名を記載。

＜和文・英文以外の言語による文献表記＞

　オリジナルの言語の慣習に従った文献リストを提示した上で、和文の論文の場合は和訳、英文の論文の場合は英訳したタイトルを［　］に入れて提示すること。

**７．著者自身の先行研究などの伏字表記**

* 本文中の場合：

×××（××）は、言語能力について以下のような調査を行った。

これについては異なる結果を導き出した調査もある（××,　××）。

* 引用文献リストの場合：

50音順にかかわらず引用文献リストの最初に下記のように書く。

××××（××）××××××××××××××××××××××××××